令和６年度自己評価計画

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実施状況の達成度判断基準	判定基準	備考
1　生徒指導の方針・基準に一貫性を持ち、時代の変化に適応しつつも毅然とした指導で、基本的な生活習慣の確立と規範意識の高揚を図る。	①　挨拶を含めた所作の指導を、ＳＴ・授業・休み時間、学校行事等「遅刻ゼロ・鶴高挨拶運動」で指導する。	生徒指導課 特活課 各学年	昨年度の調査において、自らすすんでよく挨拶している生徒は7月が90.3％、12月が91.2％であった。「遅刻ゼロ・挨拶運動」を活かしつつ、生徒たちの委員会活動の内容を吟味していきながら発信源としていきたい。A評価ではあるが、さまざまな学校行事や集会、歌唱練習など年間を通じて生徒とのヒアリングやシェア意識を共有していくと共に、一部の生徒だけではなく、すべての生徒が率先して挨拶をする機会をつくりたい。生徒たちが自分事として実感できるようにしていく必要がある。	【成果指標】 来校者・教職員、地域の方、友人・クラスメートに明るく元気な声で挨拶・お辞儀等ができる。	学校に関係する方々にはもちろん、生徒間の挨拶も積極的にできる生徒の割合が、 A　90％以上 B　85％以上90％未満 C　80％以上85％未満 D　80％未満	Ｄの場合、結果を分析し、改善策を検討する。	7月、12月に調査する。 （生徒アンケート）
	②　日常の観察の中で生徒の状況とそれに対する指導方針を共有し、全教職員が積極的に指導にあたる。	生徒指導課 全教職員	服装容儀に積極的に声掛けをしているという教職員が81.3％と、もう少し努力する必要がある。各生徒の状況、それに対する指導方針を共有することで、すべての教職員が指導しやすい環境をつくることが求められる。朝礼時に共通意識・理解を促すと共に、今後は生徒から学校規範等の標語を募り、生徒たちの活動に寄り添える機会も増やしていく。	【努力指標】 積極的に生徒への声かけを教員が協力して行っている。	服装容儀等について積極的に声かけをしている教職員が、 A　95％以上 B　90％以上95％未満 C　85％以上90％未満 D　85％未満	Ｄの場合、結果を分析し、改善策を検討する。	7月、12月に調査する。 （教職員アンケート）
	③　学校生活の重要性を伝えながら、学校生活全般が充実感をもって過ごせるよう個々の指導に努める。1日のよいスタートをきれるように、5分前登校の重要性を粘り強く指導していく。	生徒指導課 教務課 教育相談課 各学年	昨年度は年度内で3回以上遅刻した生徒の数が大幅に増加した。遅刻の原因は多様化しているため、従来の指導に加え、睡眠・食事（栄養）・スマートフォンの使用等の生活状況の把握に努め、個々に応じた課題や解決方法を理解させ遅刻の改善に繋げる。また、遅刻者が増え始めた兆候を見逃さず、先行的に個々の状況に応じた声掛けや意識づけを学年団・部活動顧問・保護者等と連携しながら展開していく。	【成果指標】 遅刻指導を通して生活が改善し、3回以上遅刻を繰り返さないようにする。	年度内で3回以上遅刻した生徒の数が、 A　40人未満 B　40人以上45人未満 C　45人以上50人未満 D　50人以上	Ｄの場合、指導の方法を再検討する。	月ごとの集計記録を整理して、前年度の年間総合計に基づいて評価する。
	④　「いじめ・不登校問題対策委員会」等で生徒情報を共有し、全職員が連携して「いじめ」が根絶されるよう努力する。	生徒指導課 教育相談課 全教職員	昨年度は、いじめがなく安心できる学校であると感じている生徒は全体で83．2％と低調なアンケート結果となった。日頃より、前掲①～③の取り組みを徹底するとともに、教員間で予測的見地・命の尊厳・安全危機管理意識を共有し、自他ともに思いやる心の醸成に努めている。また、いじめの兆候がある場合には、フォームを活用した相談窓口を常時開設し、積極的認知に務めることで、安心して学べる環境づくりを充実させていく。ネットトラブルやいじめを未然に防ぐ教室や講話の振り返りを充実させ「いじめの抑止に繋げる。	【満足度指標】 「いじめがなく安心できる学校である」と感じている生徒の割合が高い。	「いじめがなく安心できる学校である」と感じている生徒の割合が、 A　90％以上 B　85％以上90％未満 C　80％以上85％未満 D　80％未満	Ｄの場合、指導の方法を再検討する。	7月、12月に調査する。 （生徒アンケート）
	⑤　学校の環境美化に積極的に努め、校舎内外の環境美化にも取り組むよう指導する。	保健厚生課 特活課 全教職員	昨年度の生徒アンケートで、校舎内外の環境美化に積極的に取り組んでいると回答した生徒は、昨年同期と比較して、全体で3.3ポイント減の77.9％となった。本年度は教室はもとより、校舎内外の環境美化意識の定着を図るため、整備委員による定期的な「クリーン作戦」の実施や校内放送・ポスターの掲示等により環境美化意識向上に取り組む予定である。	【成果指標】 校舎内外の環境美化にも積極的取り組む。	校舎内外の環境美化にも取り組んでいる生徒の割合が、 A　90％以上 B　85％以上90％未満 C　80％以上85％未満 D　80％未満	Ｄの場合、結果を分析し、改善策を検討する。	7月、12月に調査する。 （生徒アンケート）

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実施状況の達成度判断基準	判定基準	備考
2　生徒が安心して学べる授業づくり（授業規律の維持、授業のユニバーサルデザイン化）を推進するとともに、家庭学習時間の確保や読書量の増加を図り、主体的・対話的で深い学びの実現を目指す。	①　毎月の教育相談委員会で報告される生徒情報を、学年会で共有し、より深く把握できるようにする。担任が掴んだ生徒の進路希望を教科会でも共有し、適切に支援できる能力の向上を目指す。	教務課 各教科 教育相談課	学習状況のみならず家庭状況など、生徒自身の経歴の把握と進路の希望を分けて把握し、明確化する必要がある。教師が情報交換できるよう、情報を整理する必要がある。適切な学習指導ができるように、保護者懇談会で得た情報などを担任や学年団、教育相談、部活動顧問、教科担当者間で情報交換・共通理解をすることが必要である。	【努力指標】 教職員は個々の生徒理解に努めた上で、学習指導を行う。	個々や集団に応じた授業を行うために、担任や学年団・教育相談などと生徒情報を相互に共有している教職員の割合が、 A　95%以上 B　90%以上95%未満 C　85%以上90%未満 D　85%未満	Dの場合、結果を分析し、改善策を検討する。	7月、12月に調査する。 （教職員アンケート）
	②　１人１台端末の効果的な利用や話し合い、発表の場面などを取り入れ、生徒が主体的に学習に取り組む力を身に付ける。また、そのための学習の評価の仕方を各教科で検討する。	教務課 各教科	授業中は落ち着いているものの、受け身である生徒が少なくなく、理解したことや習得したことを活用したり探究したりする力はまだまだ乏しい。個々の教科でなく学校全体で、生徒の探究活動のスキルを身に付けることや、ICT機器の活用や協働学習を通して授業への主体的参加を促す教員の指導スキルの向上等、校内研修や指導体制を整備していく必要がある。	【満足度指標】 習熟度別や選択授業、一人一台端末を利用した学習や評価を検討し、生徒の学習活動に対して効果的に実施されている。	発表や話し合い活動など、積極的に授業に参加したと答えた生徒の割合が、 A　90%以上 B　85%以上90%未満 C　80%以上85%未満 D　80%未満	Dの場合、結果を分析し、改善策を検討する。	7月、12月に調査する。 （生徒アンケート）
	③　個に応じた進学指導、就職指導を充実させることにより、自尊感情を育み、希望進路の実現を果たせるよう努力させる。	進路指導課 3年学年会 各教科	昨年度は５名の国公立志望者が全員受験し合格を果たした。今年度は４名の国公立大学志望者がいる。全員に合格圏内の力をつけさせたい。その上で４名全員の合格を目指す。そのためには進路指導課と学年・教科が指導についてより緊密に連携し、個々の生徒の特性と学力の把握を行い、個々に応じた指導を展開していく。 就職に関しては、好調だった昨年度以上の求人件数が予想されるため、本人の適性を最重視し、同一企業で長期間働くことができるよう、保護者や外部組織との連携を密にし、就職希望者の適性診断を随時実施する。	【成果指標】 国公立大学に４名全員合格している。	年度末の進学状況において、国公立大学合格者が、 A　4名全員 B　2名以上4名未満 C　1名以上2名未満 D　0名	Dの場合、目標設定の検討、指導方法等を検討する。	最終進学状況の調査で評価する。
				【成果指標】 就職希望者が3月末までに100％内定している。	3月末の就職状況において、就職希望者の内定率が、 A　100% B　95%以上100%未満 C　90%以上95%未満 D　90%未満	Dの場合、目標設定の検討、指導方法等を検討する。	3月就職状況の調査で評価する。
	④　家庭学習調査を行い、その状況を分析し、課題の出し方を適切に工夫したり、担任が面談したりすることで家庭学習の習慣を身に付けさせることにつなげる。	教務課 進路指導課 各学年	家庭学習の必要性を自覚し、取り組むことができる生徒は約半数に留まっており、未だ定着しているとは言い難い。一人一人の特性に応じた課題等を与え、生徒が学ぶ喜びを感じつつ取り組む姿勢を身に付けさせなければならない。ICT機器等を利用し、学習時間を自己管理できるようにする。	【満足度指標】 担任・教科担当・部顧問と連携し、学習と部活動の両立を実践させる。	家庭学習の時間を確保している生徒の割合が、 A　60%以上 B　50%以上60%未満 C　40%以上50%未満 D　40%未満	Dの場合、結果を分析し、改善策を検討する。	7月、12月に調査する。 （生徒アンケート）
	⑤　情報科、商業科における各種検定・資格取得を推進するとともに、より上級資格取得に向け挑戦する意識付けと対策講座等、指導体制の充実を図る。	情報科 商業科	全体の合格率は、55.5%。全商1級取得者において、2冠1名、1冠2名の結果となっている。取得状況については、ビジネス計算実務検定1級普通計算92.9%(13/14)ビジネス計算33.3%(2/6)、2級普通計算81.3%(13/16)ビジネス計算72.2%(13/18)、3級普通計算82.6%(19/23)ビジネス計算80.0%(20/25)、全商ビジネス文書実務検定1級文書75.0%(3/4)速度22.2%(2/9)、2級文書83.3%(15/18)速度66.7%(14/21)、3級文書75.0%(27/36)速度85.3%(29/34)、全商情報処理検定1級0.0%(0/2)、2級ビジネス52.2%(12/23)ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ100.0%(1/1)、3級94.7%(18/19)、全商簿記実務検定では、2級25.0%(1/4)、3級0.0%(0/1)、全商商業経済検定では、ビジネス経済Ａ33.3%(1/3)、マーケティング52.9%(9/17)、ビジネス基礎100.0%(2/2)であった。 各種資格に関する興味・関心を早い段階で引き出すために、進学就職への見通しを掴ませるとともに、合格した達成感を得させることや個別指導を拡充することで、より上級資格取得に対する強い意欲を持たせるよう指導の充実を図る。	【成果指標】 各種検定資格の取得率が増加している。	ビジネスコースに在籍する生徒を対象に、各種検定各級取得率が、 A　1級2種目取得率30%以上 B　2級2種目取得率50%以上 C　3級2種目取得率70%以上 D　ＡＢＣ未満 ※各検定級合格者数／コース人数	Dの場合、結果を分析し、学習意欲喚起の方策、指導体制等、改善策を検討する。	各種検定の合格状況を調査する。
	⑥　学校図書室の取り組みを活性化し、積極的に読書に取り組ませる。朝学習や授業を利用して読書を取り入れ、本に触れる機会として図書館での貸し出しを促す。	教務課（図書担当）	生徒数の増加もあり昨年度より増加しているが、まだまだ少ない。４月～６月の貸出数が少なく国語の授業などのガイダンスで１学期からの貸出を促す必要がある。授業や朝学習、部活動等を通じて、具体的にどのような本があるか実際に手に取ってみたり、興味のある本などを見つけさせる等、活字に触れる機会を増やす必要がある。	【成果指標】 ガイダンスでの本の発見や、教科のみならず、朝読書などを通して、本に触れる機会が促がされ、読書量が増加している。	図書室での年間貸出冊数が、 A　1,400冊以上 B　1,200冊以上1,400冊未満 C　1,000冊以上1,200冊未満 D　1,000冊未満	Dの場合、結果を分析し、改善策を検討する。	年度末に集計する。

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実施状況の達成度判断基準	判定基準	備考
3　教育活動の速やかな情報発信と地域社会と連携・協働した活動の推進で、地域や保護者から信頼される学校づくりに努める。	①　中学生やその保護者に対して従来のホームページに加え、新たにSNSアカウントを設置・運営し、学校行事や部活動の大会情報、日常の学校生活等をよりタイムリーに公開することで、本校への理解を深め志願者の増加をめざす。	総務課	ホームページの年間更新回数は昨年度5%減の396回で、アクセス数月平均は昨年度10%減の31,104件であった。閲覧数は例年とほぼ同数で、志願者数の増加には繋がらなかったかもしれないが極端な減少は見られなかった。 一昨年から取り組んだインスタグラムでは、学校生活の雰囲気がより分かるよう、画像や動画を多く用いたり、生徒たちの自然な日常も取り入れたりすることにより、魅力的な情報発信ができた。 また、地域商工会青年部とのタイアップ動画でも、多くの方々に閲覧頂けた。これからも、地域と連携した白山手取川ジオパーク推進活動、鶴来街づくり事業等、各種取組について、本校のみならず地域の魅力発信も強化していく必要がある。	【成果指標】 本校のSNSアカウント（鶴高インスタグラム）の更新に対し、積極的かつ肯定的な反応を示している。	SNSアカウント（鶴高インスタグラム）の「グッド」数が、平均で A　180件以上 B　150件以上180件未満 C　120件以上150件未満 D　120件未満	Dの場合、結果を分析し、改善策を検討する。	7月、12月に集計する。
	②　「総合的な探究の時間」の活動を通して、生徒が興味・関心を持つ分野の課題に気づき、その問題の本質を考え、解決方法の検討等に取り組む学習活動を充実させていく。	進路指導課	生徒が探究型学習の形で、興味関心を持つ分野や地域課題の解決をテーマに取り組む機会を大幅に増やす。1年生においては、探究スキルをしっかり学び、探究型学習の手法に慣れるための機会を設ける。2・3年生においては、どのような課題があるのか、課題の背景や取組を理解し、解が一つでないことを知り、各自がそれらに対してどのように関わって地域や社会、環境等に貢献をしていくのか、そして、話し合いや発表等、意見交換を通して多様な視点から考察力や表現力、協働する力を向上させることを目指した取組を推進していく。	【努力指標】 生徒が活動に、主体定・協働的に参加している。	「総合的な探究の時間」の活動において、積極的に取り組むことができた生徒・教職員の割合が、 A　80%以上 B　70%以上80%未満 C　60%以上70%未満 D　60%未満	Dの場合、結果を分析し、改善策を検討する。	7月、12月に調査する。 （生徒・教職員・保護者アンケート）
	③　生徒・教職員・保護者が一体となり、手取川歩行や花いっぱい運動を通して、地域のボランティアや小中学校と連携した活動に取り組み、地域とのつながりを深めていく。	特活課 総務課	昨年同期と比較すると、活動に参加したいと感じている生徒が増加した。特に1年生が増えたものの、まだまだ低調な数値であるため、参加案内の早期の呼びかけ、活動の意識付け、部活動単位の参加による活動のきっかけづくり等、啓発や指導の工夫と改善を図っていく。 一方、教職員の意識は高く、花いっぱい運動では、生徒が地域の公共施設や病院にプランターを設置する等、積極的に地域と関わる活動を行っている。陸上部では、毎年近隣の中学生を招き実技講習会を開催している。地域探究会では中学校に、ジオパークに関する出前授業を展開している。こうした取組を他の部活動にも働きかけ、スポーツや文化的行事を通じた地域連携の取組も充実させていく。	【努力指標】 生徒・教職員・保護者が積極的に小中学校や地域と連携する活動に参加している。	学校行事や課外活動において、地域のボランティアや小中学校と連携した活動に取り組むことができたと思う生徒・教職員・保護者の割合が、 A　70%以上 B　60%以上70%未満 C　40%以上60%未満 D　40%未満	Dの場合、結果を分析し、改善策を検討する。	7月、12月に調査する。 （生徒・教職員・保護者アンケート）
4　教職員自ら、これまでの働き方を見直し、限られた時間の中で、教材研究・授業準備や生徒と向き合う時間を十分に確保できるようにする。	①　各教職員が自らの勤務時間や業務内容を的確に把握するとともに、毎月の業務の流れの中で先を見通し、区切りを意識した計画的・効率的な遂行に努める。	教頭 全教職員	毎月2回設定されている定時退校日を意識し、実行することができた教職員の割合は、前期50.0%、後期63.3%で堅調に改善している。80時間超過勤務者推移では、前期では4月3名、5月3名、6月1名、7月・8月0名で、延べ人数7名、実人数5名となり、後期では9月3名、10月1名、11月0名、12月2名、1月4名、2月2名、3月2名で、延べ人数14名、実人数7名となっており、改善が求められる。しかし、月45時間以下の教職員の割合では、前年度に比べ前期は10.6ﾎﾟｲﾝﾄ増の65.0%、後期は3.0ﾎﾟｲﾝﾄ増の73.2%と堅調に改善傾向にある。 学期始めや部活動の大会期間等の時期では、依然として超過勤務状態にあるが、月80時間以上超過勤務ゼロ、月45時間以下の増加を実現するために、職員会議や校務運営委員会等の会議日における短縮日課の設定や定時退校日に特別な事情で退勤できなかった職員に対する割振日の設定を継続することで、職員の意識改革をより徹底していくとともに、各種会議・委員会開催の精選、運営の効率化、部活動の計画的な運営を図る等、より堅実な遂行体制の整備を図っていく。	【努力指標】 教職員一人一人が自らの勤務時間を把握し、業務内容を精査して計画的・効率的に取り組み、時間外勤務が削減されている。	学習活動や部活動への指導の質の向上を図りつつ具体的な計画や取組を行い、時間外勤務を減少することできた教職員の割合が、 A　80%以上 B　70%以上80%未満 C　60%以上70%未満 D　60%未満	Dの場合、結果を分析し、改善策を検討する。	7月、12月に調査する。 （教職員アンケート）